



新規

まちづくりの一層の進展

17. 地域公共交通の充実

～コミュニティバスの新規路線導入を含めた方策～

予算額 15,269千円

コミュニティバスにおいて、これまでの導入検討調査の結果を踏まえつつ、社会情勢等の変化を捉え、新たな視点を取り入れるなど、新規路線導入も含めより効果的な方策について検討する。

目的、わらい等

だれもが安心して移動できるよう、土地(崖線)の高低差によって移動が困難な地域や、公共交通の機能向上を図る地域等を中心に、コミュニティバスを主体とした地域公共交通の移動手段の確保に向けた取組みを推進する。



経過等

- 平成 20 年度 コミュニティバスモデル運行開始
- 平成 21 年度 バスの愛称募集を行い、「Kバス」に決定
- 平成 22 年度 コミュニティバス(Kバス)本運行開始
- 平成 30 年度 北区コミュニティバス展開方針策定調査実施

事業内容

地域公共交通会議等の検討会議を立ち上げ、コミュニティバスの新規路線導入を含めより効果的な方策について検討する。



コミュニティバスのルート図

土木政策課長 岩本 憲文 ☎3908-9238



新規

まちづくりの一層の進展

18. 水辺空間の有効活用

水辺空間を活用した地域のにぎわいを創出するための整備を行う。

- I 堀船緑地(仮称)遊び場内の通路整備
- II 荒川緑地(豊島ブロック)の整備

I 堀船緑地(仮称)遊び場内の通路整備

予算額 20,171千円

堀船緑地(仮称)遊び場と隅田川河川管理通路を接続することで、河川沿いの散策ネットワークを形成するとともに、災害時の避難路としての利用が期待される。

目的、わらい等

東京都施工のスーパー堤防工事や護岸耐震補強工事の進捗に合わせ、隅田川右岸の堀船緑地(仮称)遊び場と河川管理通路を接続することで、散策やジョギングなど平常時の利用が期待されるとともに、災害時の避難路としての利用が期待される。さらに、王子・堀船方面から荒川へのアクセス向上にも繋がるため、今後、石神井川、隅田川、荒川の水辺空間について有効活用を推進していく。

事業概要

平成 30 年度

耐震補強工事(都)

平成 31 年度

緑地内通路工事(区)



道路公園課長 佐野 正徳 ☎3908-9213



19. 魅力ある公園の整備

区民が愛着を感じ、訪れる人にやすらぎとうるおいを与える「魅力ある公園づくり」を推進するため、区立公園・児童遊園等のあるべき姿を定め、今後公園等を新設、改修及び管理運営する際の指針を策定する。

公園等の整備では、(仮称)滝野川三丁目公園の新設整備に向けた事業を推進するほか、防災機能を備えた区民の憩いや交流の場として、利用しやすい公園等の再生及び新設整備を行う。

- I 公園総合整備構想の策定
- II 公園等の新設及び再生整備

I 公園総合整備構想の策定

予算額 10,231千円

目的、わらい等

各公園が持つ魅力の創出を充分に発揮するとともに、区民が愛着を感じ、訪れる人にやすらぎとうるおいを与える「魅力ある公園づくり」を推進するため、区立公園全体の整備方針を策定する。

事業内容

①近隣規模(標準面積2ヘクタール)以上の公園

～ 多様なニーズに対応する個性ある公園へ ～

各公園のコンセプトを決定し、個性的な魅力ある公園として整備方針を策定する。また、マーケットサウンディング(市場対話型)調査を行い、Park-PFI制度(公募設置管理制度)や指定管理者制度等の活用を検討することで、民間活力の導入を視野に入れた「にぎわいや魅力ある公園づくり」を推進し、公園の質の向上と公園利用者の利便の向上を目指す。

②近隣規模未満の公園等

～ 日常的に使う身近で使いやすい公園へ ～

施設の適正配置を検討し、必要に応じて設置、集約を行う

今後のスケジュール

平成31年度～平成32年度にかけて策定する。



II 公園等の新設及び再生整備

事業内容

(1) (仮称)滝野川三丁目公園の実施設計 予算額 16,387千円

国公有地の土地利用転換に合わせ、みどりの確保・保全及び地域の防災性の向上を図るため、時代に即したバリアフリー化を考慮し、高齢者やファミリー世代が快適に利用できるよう、新設公園の実施設計を行う。

- 公園全体面積 約 5,123 m²
- 所在地 滝野川三丁目地内

(2) 田端新町公園の再生整備 予算額 138,930千円

昭和 40 年に開園し、老朽化が進んでいる本公園においては、東京都下水道局の占用工事の完了を機に再生整備を実施する。

- 公園全体面積 約 1,671 m²
- 所在地 田端新町一丁目地内



(3) (仮称)田端二丁目児童遊園の整備 予算額 52,437千円

- 公園全体面積 約 487 m²
- 所在地 田端二丁目地内

(4) (仮称)滝野川五丁目遊び場の整備 予算額 31,276千円

- 公園全体面積 約 136 m²
- 所在地 滝野川五丁目地内

経過、今後のスケジュール

公園名	実施設計	工事着手	工事完了
(仮称) 滝野川三丁目公園	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
田端新町公園	平成 30 年度	平成 31 年度	
(仮称) 田端二丁目児童遊園			
(仮称) 滝野川五丁目遊び場			

土木政策課長 岩本 憲文 ☎3908-9252

20. 駅周辺のまちづくりの推進(赤羽駅・王子駅・十条駅)

I 赤羽一丁目における市街地再開発事業の促進

予算額 14,171千円

大規模商業施設と商店街が共存する商業の中心地である赤羽駅東口地区において、土地の合理的かつ健全な高度利用を図ることにより、一層のにぎわい創出と生活利便性の高い住・生活環境を整備し、かつ災害に強いまちとするため、都市再開発法に基づき、赤羽一丁目における第一種市街地再開発事業を民間の再開発組合により施行する。

目的、わらい等

赤羽一丁目の一部の地域で、高度利用を図り、施設建築物を民間活力により建設する。商業・業務機能を備え、地域に開かれたゆとりある歩行者空間や緑化空間づくりなど、周辺まちづくりと整合を図りつつ、幅広い世代が共に暮らせる都市型居住住宅の環境づくりを目指している。

経過等

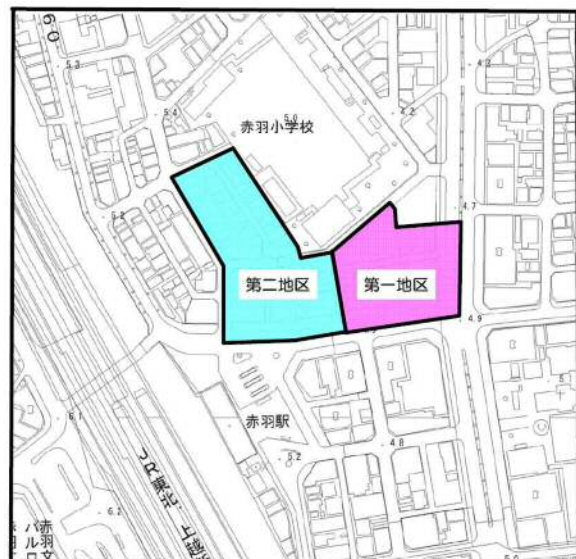
- 平成 28 年 6 月 「赤羽一丁目第一地区市街地再開発準備組合」設立
- 平成 29 年 12 月 区長進達により、都知事に準備組合設立届を提出
- 平成 30 年 5 月 「赤羽一丁目第二地区市街地再開発準備組合」※設立
- 平成 30 年 6 月 第一地区の準備組合から、事業化に向けた要望書が提出される

※加入率が法定要件を満たしていないため、区としては「準備組合」の名称を使用した準備組織と受け止めている。

今後のスケジュール

(第一地区準備組合の想定)

- 平成 31 年度 都市計画決定
- 平成 32 年度 再開発組合設立認可、
権利変換計画認可
- 平成 33 年度 着工
- 平成 36 年度 竣工



事業内容

平成 31 年度内の赤羽一丁目第一地区市街地再開発事業関連の都市計画決定を目指して、事業を推進させるため地区計画の策定や公共施設を含めた周辺まちづくりの検討を進める。

まちづくり推進課長 坂本 大輔 ☎ 3908-9154

II 王子駅周辺まちづくり整備計画の策定

予算額 143千円

王子駅周辺のまちづくりの将来像や方向性を示したグランドデザインの実現に向けて、先行実施地区として王子駅前を中心としたエリアの整備計画を検討・策定する。
王子駅前の交通拠点機能の強化やにぎわいと活力の創出などを図り、東京の北の交流拠点として都市基盤の再整備や周辺開発等を推進する。

目的、わらい等

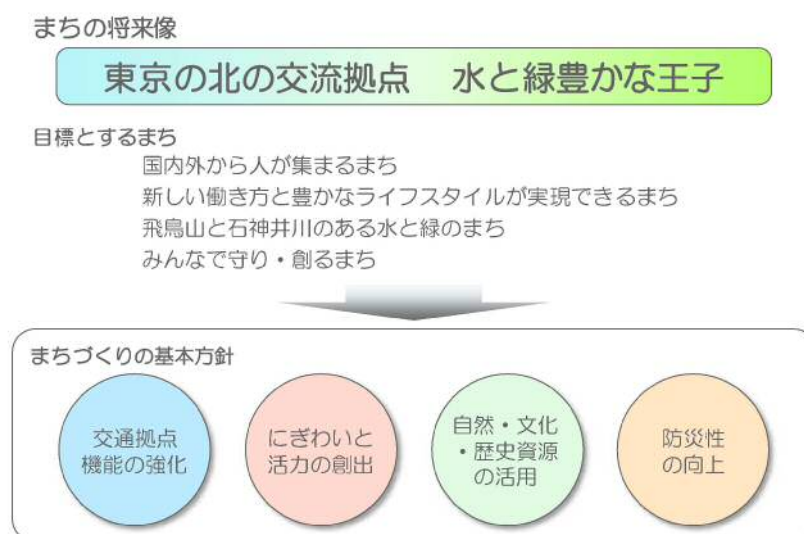
王子駅前の機能向上・まちづくりの実現を目的に、駅前広場等整備や都市機能の集積、防災性の向上などに向けた具体的な取り組みを示し、北区、地域住民、事業者等が密に連携し、段階的にまちづくりを推進する。

経過等

平成 26 年度	王子駅周辺まちづくりグランドデザイン中間まとめ作成
平成 27 年度	王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定運営支援等の委託業者選定等
平成 28 年度	王子駅周辺まちづくりグランドデザイン検討会開催等
平成 29 年度	王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定 王子駅周辺まちづくり整備計画策定等業務の委託業者選定等
平成 30 年度	交通量調査、駅周辺の都市基盤等検討及び関係機関協議

事業内容

王子駅周辺まちづくりグランドデザインの策定を受け、まちの将来像実現に向けて、優先的に整備すべき「先行実施地区」の範囲を特定した上で、平成33年度末を目途に、具体的な事業手法等を定めた整備計画の策定を行う。



王子まちづくり担当課長 倉林 巧 ☎3908-7186

Ⅲ 十条駅周辺まちづくりの推進

～十条駅西口地区市街地再開発事業・十条駅付近連続立体交差事業等の促進～

予算額 《十条駅西口地区市街地再開発事業》 4,028,490千円
 《十条駅付近連続立体交差事業等》 78,871千円

《十条駅西口地区市街地再開発事業》

十条駅西口地区の土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図り、災害に強いまちとするため、都市再開発法に基づき、十条駅西口地区第一種市街地再開発事業を民間の再開発組合により施行する。

《十条駅付近連続立体交差事業等》

東京都が進めているJR埼京線十条駅付近の連続立体交差事業に合わせて、鉄道の立体化に伴う沿線の良好な住環境の保全や地域の利便性、防災性の向上などを目的として、鉄道付属街路(側道)を都市計画法の都市施設に位置付け、都市計画事業として施行する。

目的、わらい等

《十条駅西口地区市街地再開発事業》

十条駅西口地区では、「にぎわいの拠点」のシンボルとなる高層タワー型の施設建築物を民間活力により建設し、駅前広場や道路、駐輪場を整備する。また、商業・業務機能や災害時の活動拠点としての機能も備え、地域に開かれた交流の拠点づくりと地域商業や大学との共存共栄、ゆとりある緑化空間づくりなど、幅広い世代が共に暮らせる都市型居住住宅の環境づくりを目指している。

《十条駅付近連続立体交差事業等》

十条駅を中心とした約 1.5kmの区間について鉄道を高架化し、道路と鉄道を連続的に立体交差化することにより、6 か所の踏切を除却し、踏切での交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性の向上を図る。さらに、鉄道により分断されていた地域を一体化させるとともに、都市計画道路事業等の整備を推進することにより、安全で快適なまちづくりを実現する。

事業内容

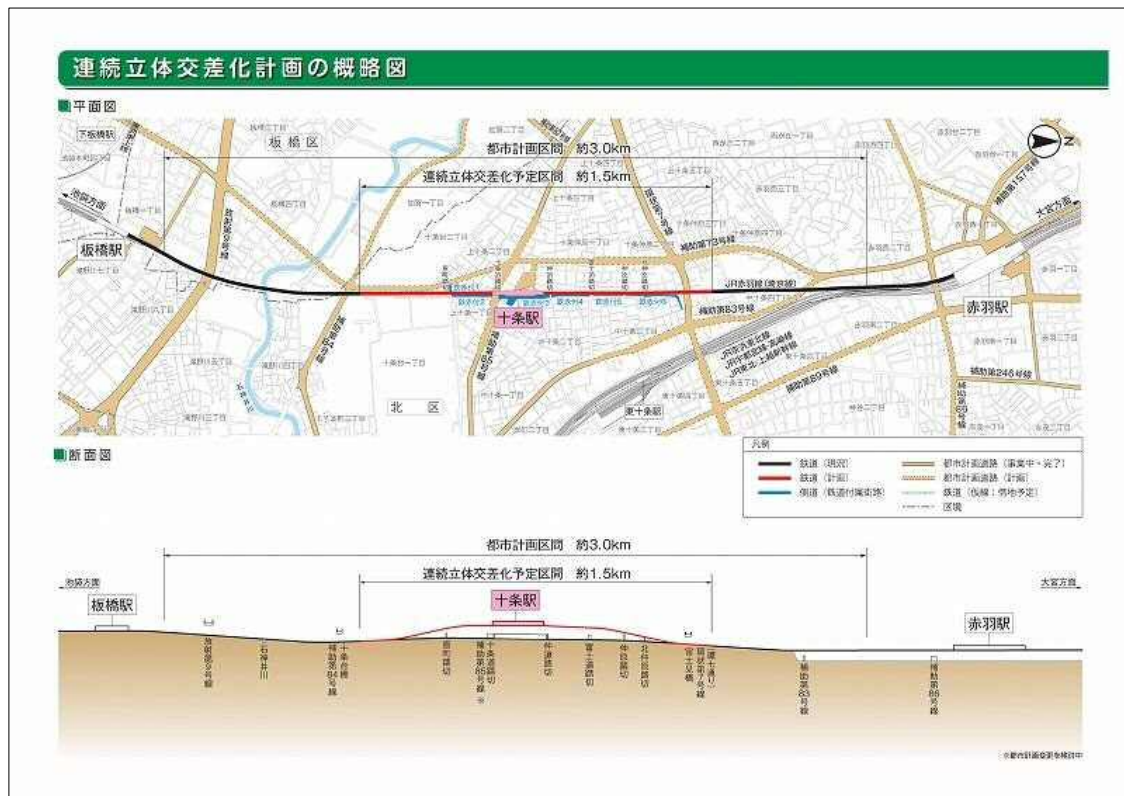
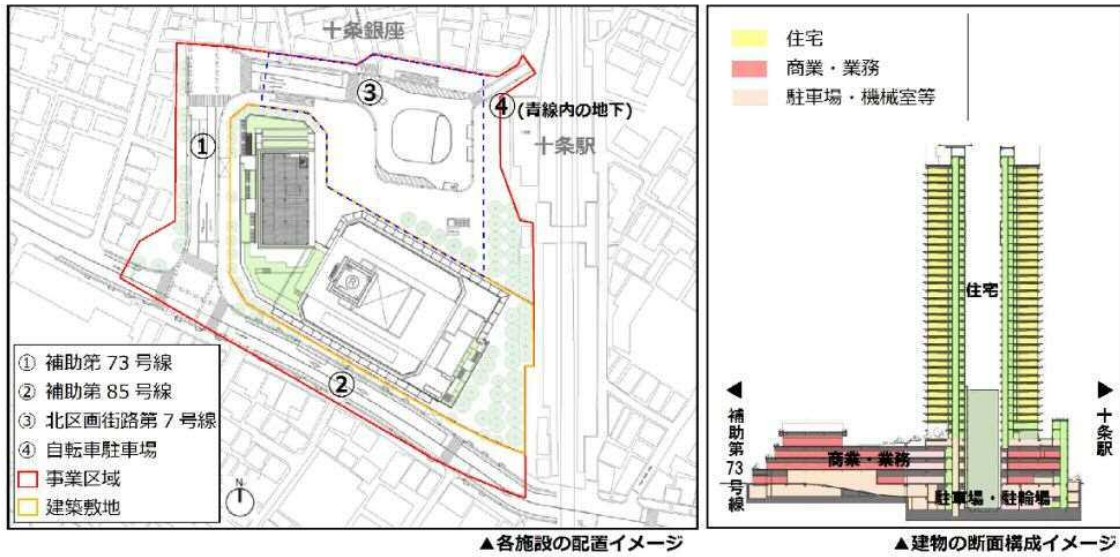
《十条駅西口地区市街地再開発事業》

平成 29 年 5 月に東京都知事より、組合設立認可を受けた、十条駅西口地区市街地再開発組合は、平成 31 年度の権利変換計画認可をめざし、事業を推進している。区では、この事業を支援するため、権利変換計画作成費及び補償費(宅地分)を補助するとともに、公共施設管理者負担金として、補償費(区道分)を負担する。

《十条駅付近連続立体交差事業等》

JR 埼京線十条駅付近の連続立体交差事業に関連する鉄道付属街路事業の都市計画事業認可取得に向けた検討及び資料作成、現地における測量業務等を行う。また、地方財政法第 27 条等に基づき、東京都が事業主体となる連続立体交差事業の測量等に要する費用の一部を負担する。

(市街地再開発事業計画のイメージ図)



十条まちづくり担当課長 石本 昇平 ☎ 3908-9162
連続立体交差事業担当副参事 市川 貴之 ☎ 3908-9162

21. 駅周辺のバリアフリー化(板橋駅)

予算額 297,329千円

JR板橋駅周辺において、駅周辺道路のバリアフリー化、歩道の拡幅整備を実施する。駅周辺の一体的なバリアフリー化と利便性の向上を図り、「地域の生活拠点」の形成を促進する。

目的、わらい等

板橋駅周辺交通バリアフリー基本構想(平成18年9月策定)に基づき、駅周辺及び滝野川桜通りのバリアフリー化を実施する。

経過及び予定

平成18年度	板橋駅周辺交通バリアフリー基本構想策定
平成26年度	板橋駅周辺現況・路線測量、交通量・地質調査等
平成27年度	板橋駅前広場基本設計、北70号・353号基本設計
平成28年度	板橋駅前広場実施設計、北70号・353号実施設計
平成29年度	滝野川桜通り工事(I期)、
平成30年度	板橋駅前広場工事、滝野川桜通り工事(II期)
平成31年度	滝野川桜通り工事(III期)、特別区道北353号工事

事業概要

- ①滝野川桜通りバリアフリー化
- ②特別区道北353号バリアフリー化



土木政策課長 岩本 憲文 ☎3908-9252

22. 鉄道駅のバリアフリー化と安全対策

予算額 68,507千円

公共交通機関のバリアフリー化と利用環境の改善を促進するため、鉄道事業者と連携して、複数の改札口を有する鉄道駅における2ルート目のエレベーター整備とともにホームドア等の転落防止対策を推進する。

目的、わらい等

北区都市計画マスタープラン 2010 に掲げた「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、高齢者や障害者等を含め、だれもが自立した日常生活や社会生活を営むことができるバリアフリーのまちづくりを総合的・一体的に進める。

経過等

平成 18 年 3 月	駒込駅北口エレベーター整備完了(豊島区)
平成 21 年 3 月	北赤羽駅浮間口エレベーター整備完了
平成 22 年 3 月	尾久駅エレベーター整備完了
平成 23 年 3 月	王子駅中央口エレベーター整備完了
平成 29 年 3 月	赤羽駅の京浜東北線ホームドア整備完了
平成 30 年 3 月	板橋駅エレベーター整備完了
平成 30 年 8 月	板橋駅エスカレーター整備完了
平成 31 年 2 月	王子駅ホームドア整備完了予定



使用開始した板橋駅のエスカレーター

事業内容

JR 東日本による整備に対して補助を行う。

- 駒込駅東口への2ルート目のエレベーター設置に向けた整備
- 北赤羽駅赤羽口への2ルート目のエレベーター設置及び多機能トイレ設置に向けた整備



工事に着手した駒込駅東口のエレベーター

都市計画課長 丸本 秀昭 ☎3908-9152

23. 自転車環境の整備

自転車は、日常生活における身近な移動手段や、レジャーの手段として多くの人に利用されていることから、道路幅員や利用状況に応じ、安全で快適な自転車通行空間の整備を推進する。

また、放置自転車の多い駅周辺の交通環境を改善するため、自転車駐車場の老朽化した設備の改修工事を実施し、既存自転車駐車場施設の有効活用を図る。

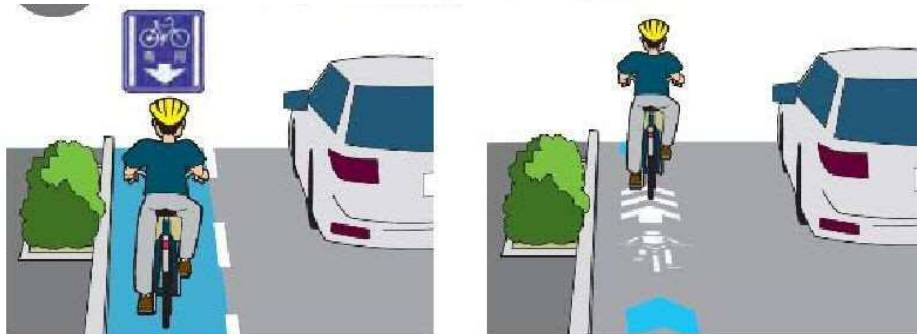
- I 北区自転車ネットワーク計画に基づく自転車通行空間の整備
- II 自転車駐車場の整備

I 北区自転車ネットワーク計画に基づく自転車通行空間の整備

予算額 11,000千円

目的、わらい等

「北区自転車ネットワーク計画」に基づき、平成31年度から10年間で自転車通行帯等を整備するため、自転車ネットワーク路線に位置づけられた区道約56.8kmについて自転車通行空間の整備を進める。



経過等

平成29年度～平成30年10月

学識経験者及び関係機関等による「北区自転車ネットワーク計画策定検討会」において検討

平成30年12月～平成31年1月

「北区自転車ネットワーク計画(案)」についてパブリックコメントを実施

平成31年3月

「北区自転車ネットワーク計画」策定予定

事業内容

平成31年度は、約5kmの自転車ネットワーク路線について、整備に向けた交通管理者等との協議を踏まえ、調査・設計を実施する。

Ⅱ 自転車駐車場の整備

予算額 19,112千円

目的、わらい等

老朽化した新田端大橋北・南自転車駐車場及び栄町自転車駐車場の設備を更新し、利便性を向上させることで田端駅及び王子駅周辺の放置自転車を削減する。

事業内容

(1) 新田端大橋北・南自転車駐車場改修

現在設置している二段式ラックを撤去し最新式のオートリターン二段式ラックを設置する。これにより利用されていない上段部の有効活用を図ることが出来る。



改修前自転車駐輪 ラック



改修後自転車駐輪ラックイメージ

(2) 栄町自転車駐車場改修工事実施設計

現在設置しているラックを撤去し半地下部分の解消を行い、最新式のオートリターン二段式ラックを設置するよう設計を行う。

オートリターン式（最新式）

2段式ラック上段に、女性・高齢者でも片手で上げられるバネ式になっているラック。

施設管理課長 稲垣 茂孝

☎3908-9218